

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	虹色YELL		
○保護者評価実施期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和6年9月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年9月30日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	高校生を対象にした事業所で高校卒業後の進学や就労に向けてのコミュニケーション能力や仲間との関わり、自立して生活を送れるようにSST(ソーシャルスキルトレーニング)などを活かし社会的支援に取り組んでいます。	月2回、企業見学、体験等の機会を設けて将来の進路について考える時間を作っています。 5領域を踏まえ活動を考えPDCAサイクルを行っています。 利用者の実態や状況や気分を見極めながら活動を進めています	利用者にどんな活動をしたか考えてもらい、みんなで考えた活動を採用し、活動参加意欲を引き出しています。 自己決定ができるように環境整備、意思表示のサポート、情報提供など、考える時間を常に設けています。
2	個別支援計画を踏まえ、専門性に基づく評価・計画に沿った5領域のうち特定の領域に重点を置いた支援を行うための専門的支援実地計画を作成し、当該計画に基づき支援を行っています。	定期的に職員のスキルアップ研修をしています。 計画の作成だけでなく、その後のモニタリングや支援内容の見直しをしています。	保護者への定期的な相談や、家庭内での支援方法についてのアドバイスを提供し、利用者の成長や発達を一貫してサポートしています。
3	自己理解支援・自己決定支援を行っています。	自己分析の機会を設けています。 利用者の意思や希望を尊重しています。 分かりやすく説明と選択肢の提示をしています。 段階的な自己決定のサポートをしています。	リスクを理解しつつも過度に介入しないようにしています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内に体を動かせる場所がない。	今の施設でできることを最大限に考えて工夫していきます。	体育館や公園に行く機会をつくり体力づくりをしています。 トランポリンや卓球などを用意してYELL室内で軽く運動ができるようにしています。
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 虹色YELL

公表日 令和6年9月30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5人		活動を行うスペースやクールダウンする部屋などを分けて適切に行っています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5人		配置上適切である。職員間で情報を共有したり意見交換を行い一本化して支援が出来るように努めています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5人		トイレ以外はバリアフリー化されています。トイレのみ段差があるため必要がある際はサポートや改善をします。	イレのみ段差があるため必要がある際はサポートや改善をします。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5人		毎朝掃除、消毒を欠かさず行っている。業務終了後に話し合いの時間を設け活動に合わせた空間づくりをしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5人		保護者からの評価を受け意向を把握してよい環境や支援が提供できるよう工夫している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5人		全職員が同じ支援が出来るように会議や日々の業務終了後に話し合いの時間を設けています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5人		保護者からの評価を受け意向を把握してよい環境や支援が提供できるよう工夫している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5人		利用時間の前後に打ち合わせや意見交流、情報共有を行い、改善に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5人		第三者からの評価を受け、ホームページに公表しています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5人		定期的に社内での研修を行って参加をしている。外部の研修はリモートにて職員間で交代をして参加するようにしています。	研修の内容を職員間で周知し資質向上に努めます。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5人		利用者の特性やニーズを理解し、スモールステップでスキルや知識を習得できるよう作成している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5人		定期的にモニタリングを行って、計画の見直しや利用者の必要なことを判断している。	今後も定期的にモニタリングを行い子どもの成長や変化を見極め支援計画を立てています。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5人		職員間で話し合い意見交換を行っています。利用者の状況に対して個別、集団を組み合わせています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5人		個別支援計画をもとに、職員間で話し合い意見交換を行っています。業務終了後に計画に沿った支援であったかの確認もしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5人		記録を通して利用者の変化や気づき等を話し合い意見交換を行い支援を行っています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5人		定期的に面談を行ってアセスメントをとっています。利用者の特性やニーズを理解し、スモールステップでスキルや知識を習得できるよう作成している。移行支援では就労支援の一環で企業見学や体験を行っています。	家族支援では常に対応できるよう整えて実行しています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5人		職員間で話し合い意見交換を行っています。職員間で話し合い、意見交換を行い、楽しんでいただける作成しています。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5人	習慣・定着する中で、段階に合わせて固定化しないように工夫をしています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5人	職員間で話し合い意見交換を行っています。利用者様の状況に対して個別、集団を組み合わせています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5人	毎日、支援の前に打ち合わせを行っています。月の始めには活動の役割分担をしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5人	日々、利用者の状況や支援を行ったことを話し合いながら、記録に残しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5人	記録を通して利用者の変化や気づき等を話し合い意見交換を行い支援を行っています。	職員間で話し合い、意見交換を行いながら今後の支援に繋がるように努めています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5人	定期的にモニタリングを行って、計画の見直しや利用者様の必要なことを判断している。	今後も定期的にモニタリングを行い子どもの成長や変化を見極め支援計画を立てていきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5人	ガイドラインに基づいて活動内容に組み合わせている。ガイドラインに沿っているかの確認を取りながら今後も支援に努めています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5人	自己分析の機会を設けています。利用者の意思や希望を尊重しています。分かりやすく説明と選択肢の提示をしています。	段階的な自己決定のサポートをしています。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5人	サービス担当者会を行う機会が少ないが開催した際は児童発達支援管理責任者又は管理者が出席している。	会議で得た情報を職員間で共有を行っています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5人	福祉、医療、教育と連携しやすい状況なのでやりやすい。今後も連携を図りより良い支援をしていきます。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5人	学校、事業所での様子の情報交換や学校の行事確認など情報の共有を行っています。	今後も情報共有を職員間で共有して行っています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5人	アセスメント等同意をとり児童発達支援事業所と連携を図り情報共有に努めております。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5人	今後聞き取りを行い、利用者・保護者の意向や同意を得て情報共有を行っています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5人	研修を通して必要なスキルを習得している。今後も研修内容等を吟味して行う。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5人	会社イベントを通して交流する機会を設けたり、幼稚園などの職場体験を通して交流をしている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5人	今後、対象の方がみえた際は積極的に参加します。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5人	連絡帳の活用や送迎時や電話などで相談を受けることがありその都度、職員間で共有をしている。	今後も連絡帳の活用や送迎時や電話などで相談を受けることがありその都度、職員間で共有をします。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5人	講師を呼び年に数回ペアトレを行っています。今後も継続していきます。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5人	契約時、重要事項説明書にて記載。今後も契約時に説明を行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5人	定期的にモニタリングを行って、計画の見直しや利用者様の必要なことを判断している。	今後も定期的にモニタリングを行い子どもの成長や変化を見極め支援計画を立てていきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5人	個別支援計画書を作成して説明した後同意をもらい確認のサインを頂いている。	個別支援計画書は自宅保管用と施設保管用と相談支援事業所保管用を準備している。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5人	相談に対応し、職員間で情報共有をしています。今後も、相談に対応し職員間で情報共有をしています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5人	保護者が集まって話をしたりする場を年数回提供しています。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5人	速やかに情報を提供し解決策を考え相談支援、学校にも情報を共有していただき適切に対応を行っています。	トラブルの内容、改善と説明させていただくよう速やかに対応できるように努めている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5人	毎月、請求書類と一緒に会報誌、行事予定表を同封して送付させていただいています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5人	個人情報について研修を行い、啓発に努めています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5人	必要があれば相談支援・市役所と連絡を取り通訳をお願いしたり、筆談をしたり相手の方がわかる方法で伝えています。	今後も継続していきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5人	見学等は常に開かれた状況で、対応しております。年に数回地域の学校や事業所等招待し夏祭り等イベントを開催しております。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5人	各種マニュアルを作成し、いつでも確認が出来るようになっています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5人	年に2回消防署への申請を行い実施しています。様々な災害のケースを想定している。	訓練を行う事で災害発生時にも適切に対応が出来るようにしております。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5人	アセスメントをとり確認し、定期的に保護者面談を行い変化等常に確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5人	同意書を作成し情報を共有、周知しています。職員間で情報共有しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5人	計画的に委員会を開き安全管理や必要な研修や訓練を行っている。全事業所と共有している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5人	各種マニュアルを作成し、いつでも確認が出来るようになっています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5人	ヒヤリハット研修を行いヒヤリハットの事例集の作成に努めています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5人	虐待防止研修を必修研修とし新人職員から中堅、管理者まで徹底して行っております。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5人	切迫性、非代替性、一時性を伴う場合以外は行いません。		